

# ヨコハマアートサイト

横浜の地域文化を考える・応援する



中図・LITTLE ARTISTS LEAGUE YOKOHAMA [Summer Atelier INSPIRED BY VAN GOGH] (p. 20)

2019  
Vol.

021

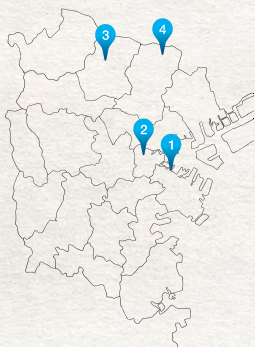
「特集 アートと子育て」





西区・特定非営利活動法人U m i のいえ「しあわせのはじまり」2019（P.03）





## アートを介した いろいろな子育て

### 1 真っ白なキャンバスに 親子それぞれの 「星月夜」

母になったバイリンガルアーティスト3人が立ち上げたアート団体「LITTLE ARTISTS LEAGUE YOKOHAMA」。国際結婚をした家庭やその子どもに向け、アートと言語という二つのツールを使い、さまざまなアートを体験できる場をつくり上げている。昨年は中区・象の鼻テラスでモネを題材にしたサマーキッズアトリエを開催。そこから新たに開発したワークショップが、ゴッホをテーマにした「PAINT YOUR

OWN NIGHT SKY INSPIRED BY VAN GOGH」だ。

ゴッホの代表作のひとつ『星月夜』にインスピレーションを受け、子どもたちはアクリル画に挑戦。小さなキャンバスを前に、子どもたちが思い思いに青・黒・白・黄の絵の具を落とし、自分だけの星月夜を描いていく。子どもと一緒にキャンバスを覗き込む保護者からも「風はどんな線で表現する?」といった会話が聞こえてくる。

会場である象の鼻テラスには、ひまわりや夜のまちなどゴッホの絵画をモチーフにしたインスタレーションを配置。その前では子どもたちが自



分で描いた星月夜を手写真撮影をする場面もあった。また、それぞれの作品を見合い、アートをきっかけに交流する姿も。自己表現の場を得られたことで、子どもたちの表情は明るい。このほかにも、ゴッホの絵に色を塗って、缶バッジが作れるコーナーも併設した。

ワークショップが終わったあとにはゴッホにまつわる絵本を読み聞かせる場を設け、親子でゴッホについて学べる空間をつくった。英語と日本語で読み上げられる物語は、象の鼻テラスのカフェスペースでくつろぐ人の耳にも届き、人々が温かく子育てを見守る時間が流れた。



2

## みんなで作る 親子の居場所を 包むアート

NPO法人Umiのいえは、2007年に保土ヶ谷区で発足した出産・子育てにまつわることを中心に「いのちにつながる」講座やワークショップを行う団体だ。現在は拠点を西区に移し、衣・食・住・文化を中心に活動。区外からも多くの人々が訪れている。

毎年恒例となった「しあわせのはじまり」と題したイベントは今年で9回目。会場は拠点のそばにある西公会堂だ。授乳服の出張販売や、子どもたちがお面やコマを作れるワークショップブースのほか、天然酵母パンや小児がん支援のレモネードスタンドといった飲食ブースなどを展開。歩きまわるスタッフは皆「授乳室を案内します」「ちょっと子どもを見ています」とかかれたワッペンを身につけ、建物全体で親子が過ごしやすい空間を作り上げた。

午後からは、ホールにてライブを開催。舞台前方に設けられたスペースでは、子どもたちが音楽に合わせて思い思いに身体を動かしていた。ライブも終わりに近づくと、アーティストの呼びかけに合わせて子どもたちも舞台上へ。参加者も含め全員が主役のステージとなった。大人も子どもも一緒に気兼ねなく集まれる場所を、柔らかな音楽が包み込む。



3

## 障害のある子どもの 父親たちが 歌い上げる多様性

「みんなと違うことは君にしかできないことがあるってこと」。センター南駅すぐ近くのライブスポットでそう歌い上げるのは、発達障害のある子どもの父親たち5人で2017年に結成されたおやじバンド・ぼんどえいど〜ずだ。「僕の長男は気持ちを言葉で伝えるのが苦手。でも色々な想いを胸に秘めている。それを伝えないと思ったんです」と語るのはリーダーのうすいまさとさん。「お母さんたちは色々なコミュニティに参加できるんですが……親父ってほかの親と関わる機会が少ないんですよ」と笑う。

この日はほかにも、ベースの大石洋一さん、ギターの込山正徳さん、サックスの小守匠さんも参加した。子どもの年齢も特性もそれぞれ異なるが、障害への理解を広げたいという想いは一緒。そのなかでも小守さんは、バンドに入って子どもとの関係に変化が生まれたという。「子どもと接する時間が増えました。僕はバンドに誘われてから20年ぶりにサックスを再開したんですが、今では子どものボイスパーカッションと合わせて演奏しています。今度お客さんの前で発表するんですよ」。

音楽の力を借りた、普段とはちょっと違う子育てがここにある。

4

## 読み聞かせ イベントも行う 先輩ママに出会える本屋

日吉本町駅より徒歩4分のところにあるのは、「こどもの本のみせ ともだち」。日本で最も古い児童書専門店だ。本屋を営む夫婦の文庫活動をきっかけに1973年開店。その後、閉店の危機を迎えるも、地域の人々が引き継ぐかたちで1985年に共同運営として再スタートした。現在は、読み聞かせ担当を含む約30人のボランティアスタッフを中心に運営し

こども・本のみせ  
ともだち

Tel&Fax 045-561-5815  
open-mon-fri 11:00-17:00  
sat 13:00-17:00  
close sunday&holiday



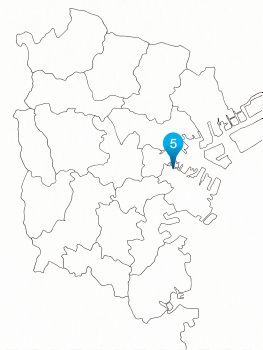
ている。その中の一人である中村朝子さんは、元々は絵本の読み聞かせ仲間から、この店を紹介されたという。

「子育て中は、よく絵本に助けてもらいました」と中村さん。「子どもと正面から向き合うばかりでは疲れてしまうときも、ちょっと目先が変わると気持ちが楽になったり。絵本は子育て仲間ですね」。

店先では訪れる人々に合わせた選書を行うだけでなく、子育ての悩みを聞くこともある。子育てを支える場所で、新たな文化も共に育まれている。

P.3左  
Umiのいえ  
<http://uminoie.org/>  
P.3中  
ぼんどえいど〜ず  
<https://www.facebook.com/YOKOHAMA.BANDAIDS/>  
P.3右  
こどもの本のみせ ともだち  
<http://tomodachi.d.dooo.jp/>





5

## 市民活動 現場の悩み 支える側の視点

福祉やまちづくり、環境など、さまざまなジャンルでの市民活動が盛んな横浜。もちろんアートもその一分野です。どんな活動にも資金や人手の不足、メンバーが変わらない悩みはつきもの。そんな悩みを抱える団体が活動の幅を広げる方法を、認定NPO法人市民セクターよこはまの薄井智洋さんに伺いました。また、ゲストとして紙芝居文化推進協議会の片岡直子さん、NPO法人打楽器コンサートグループ・あしあとの半谷麻意子さんがそれぞれ団体の事例を紹介しました。

まず薄井さんは市民活動支援センターの役割を紹介。「団体の資金繰りや労務のほか、活動をしていくうえでの困りごとを相談できますし、会議室やコピー機の貸出も行っています。また、市内18区にある区民活動支援センターでも、活動を活性化

化するお手伝いや、人・団体・活動を繋ぐコーディネート、何かを始めたいという相談も受けています」。

さらに、活動の継続という課題については「第三者が関われる場(関わりしろ)をどう作るかがとても大事です」と話しました。

続く事例紹介では片岡さん、半谷さんがともに資金繰りの苦悩を明かしました。企業との協働について質問が出ると、薄井さんは「企業から我々に声がかかることが本当に増えました。企業が従業員に対して『自分の好きな活動、団体に参加または寄付していいよ』と提案

することもあるようです。経済面だけでなく、環境的・社会的側面も視野に入れた『トリプルボトムライン』という考え方の中で、企業が我々の活動を見始めていると感じます」と感触を語りました。



【会場】mass×mass関内フューチャーセンター(中区北仲通)

【ゲスト】薄井智洋(認定NPO法人市民セクターよこはま)、片岡直子(紙芝居文化推進協議会)、半谷麻意子(NPO法人打楽器コンサートグループ・あしあと)

【聞き手・進行】小川智紀(ヨコハマアートサイト事務局/STスポット横浜) 【主催】ヨコハマアートサイト事務局



## 6 異なる文化が会う丘のまちで 育むアートな視点

森井健太郎 館長

岡崎智美 主任エデュケーター

(横浜市民ギャラリーあざみ野)

—森井— このあたりは、1960年代にスタートした東急多摩田園都市開発事業にもなって発展しました。その時期に他地域から移住してマイホームを構えた方々が、今はリタイア後の生活を楽しむ中で、アートに関心を寄せているという印象がありますね。青葉区は、男性の平均寿命が全国一位なんです。一方で、若いファミリー層も増えているので、来館される方はシニア世代と、子育て世代が中心となっています。

—岡崎— 青葉区の人には地元意識が強いですよ。私は青葉区出身なんですけど、母を見てみると「青葉区は特別」という誇りを感じます。元々は緑区と港北区の一部だった土地のほずなのに不思議ですよ。

—森井— 「横浜市民」という意識よりも「青葉区民」の方がアイデンティティに近いみたいですね。あざみ野は、東急田園都市線と市営地下鉄の2つが通っているの、それぞれの沿線文化が融合している地



点でもあるかもしれません。

—岡崎— このあたりは、いわゆる「ヨコハマ」でイメージされる港や海といった風景ではなく、坂の多い田園地帯だからでしょうか。都内へのアクセスもいいので、最近は「シロガネーゼ」をもじって「アザミネーゼ」なんて言い方をする方もいらっしやいます。みなさん文化活動も盛んで、例えば「青葉コーラスのつどい」というコーラスグループの合同発表会は規模も大きく、人気ですね。

—森井— 当館も、地域のみなさんの発表の場として活用していただいています。陶芸体験の企画から自主サークルが立ち上がるなど、新しい出会いも生まれているようです。

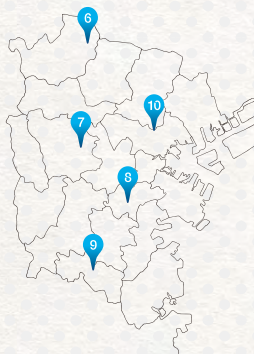
—岡崎— 小さなお子さんからダイナミックな造形体験ができる「親子のフリーゾーン」や、ラウンジスペースに設けた、障害のある方の発表の場「フェローアートギャラリー」も、新しい世界と出会う仕掛けですね。いずれは、障害の有無も越えた出会いにつながればと思っています。「あざみ野アートワゴン&マルシェ」では、アーティストや福祉団体の特設ショップや美味しいもののお店にも出会えます。

—森井— 生活の中で、正解も優劣もなく、自分の思いを表現する場としてアートを楽しむ空間があるのはいいことですよ。日々の暮らしには、はっきり白黒つけられないことや、とても越えられないような困難にぶつかることも少なくありませんが、そんなときはアートの視点が役に立ったりするんです。造形あそびや作品から受けた刺激が、思いもよらない発想をもたらしてくれる。そんな風に毎日の中に溶け込んで行ければと思っています。



## 事務局うろうろ日記

ヨコハマアートサイト事務局は、  
今日も、横浜市内の  
あっちこっちへうろうろしています。



7 7月4日(木)

旭区社会福祉協議会ぱれっと旭にて第6回あっぱれフェスタに参加。手芸作品や文具、パウンドケーキなどの自主製品販売ブースは呼び込みの声でにぎやかだ。チェコピースで作ったというピアスを買くと、抽選券がもらえた。線路に面した窓ガラスには「外に向かって笑顔で手を振ってね」「楽しさアピール！」とメッセージが書いてある。



8 7月11日(木)

弘明寺。紙芝居文化推進協議会が、南図書館で紙芝居指導者研修を行うというので見学に。「子どもへの紙芝居の普及」をテーマにした講演と事例報告。客席から質問が上がると、それに対し、別の参加者が自分の経験を語るなど、活発な意見交換がされていた。子どもの作品を実演するコーナーでは、紙芝居を通してユニークな世界を味わった。



9 8月18日(日)

最高気温34.8℃ということで、汗だくになりながら栄区・本郷台にて第七回いたち川まつり。いかだやカヌー体験など、川遊びのコーナーは見ているだけで涼しげな雰囲気。さかえegaoプロジェクトのブースでは、美術家・竹本真紀さんによるカッティングシートを使ったワークショップを開催中。好きな色と形を組み合わせるのが楽しくて、むずかしい。



10 8月23日(金)

「夏だ！海だ！ディスコde盆」という愉快なタイトルにつられて白楽・エニタイムへ。地域活動支援センターひふみの呼びかけで神奈川区の福祉事業所等が連携して行うアートな取組の一つだそう。仮装コーナーで好きな衣装に着替えたら、ミラーボールの明かりの中、DJアボカズヒロさんの流す音楽に合わせて揺れたり踊ったり。



## ヨコハマ アートサイトとは

横浜市地域文化サポート事業。地域課題の解決にアプローチする文化芸術活動をサポートするため、文化芸術の持つ創造性をコミュニティやまちの活性化と結びつける活動や、横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する活動を広く公募し、支援する事業です。

## 事務局・お問い合わせ

ヨコハマアートサイト事務局  
(STスポット横浜、横浜市文化観光局、  
横浜市芸術文化振興財団)  
〒220-0004 横浜市西区北幸  
1-11-15 横浜STビル 208  
(認定NPO法人STスポット横浜  
地域連携事業部 内)  
TEL:045-325-0410  
FAX:045-325-0414  
WEB: <https://y-artsite.org>  
MAIL: [office@y-artsite.org](mailto:office@y-artsite.org)



@Y\_Artsite



ヨコハマアートサイト

ヨコハマアートサイトに関することを中心に、横浜市内のさまざまな地域文化活動について発信します。

## 季刊ヨコハマアートサイト Vol.021

発行 ヨコハマアートサイト事務局  
編集 認定NPO法人  
STスポット横浜  
テキスト 小川智紀 池田友実  
加納美海  
デザイン 相澤事務所株式会社  
撮影 福井裕子  
印刷・製本 株式会社 三島印刷  
発行日 2019年09月30日

季刊誌についてのご意見・ご感想も  
お待ちしております。



# YOKOHAMA ARTSITE

## ヨコハマアートサイト おでかけMAP

横浜市の地域文化をサポートするヨコハマアートサイト2019参加活動による10月～12月のイベントをピックアップ。  
 情報には変更がある可能性があります。最新情報はウェブサイトをご覧ください。

横浜市の地域文化を支援するための「ヨコハマアートサイト」助成金

ヨコハマアートサイト2019  
 選考委員会による選考を経て、  
 今年度は29の活動が決定しました。

<b>A</b> -10/26	山陽印刷(株)内外ほか
会社まるごとギャラリー2019	
<b>B</b> -11/27	アーモンドホープセンター、横浜美術大学ほか
合同展覧会「子どもたちは本から私たちを見ます」	
<b>C</b> 12/14	麦田地域ケアプラザ
廃材ツリー点灯式	
<b>D</b> 10/29	ひらがな商店街、路上
ハロウィン×アート	
<b>E</b> 12/3-9	高架下スタジオ Site-Aギャラリー
こんにちは おどって うたって つくろうよ	
<b>F</b> 毎週火曜日	レンタルスペース「カドベヤ」
カドベヤ・オープンDAY 一つどおう・かたろう・つながろう	
<b>G</b> 12/14-15	蒔田公園
大岡川アートプロジェクト「光のぶるむなあと2019」	
<b>H</b> -10/14	アサアートスクエアほか
第21回金沢文庫芸術祭 アートラリー	
<b>I</b> 12/1	神奈川県立青少年センター スタジオHIKARI
第20回手づくり紙芝居コンクール 実演審査会・表彰式	
<b>J</b> 毎週金、土曜日 実施予定	1の1スタジオC、 かいだん広場
黄金町BASE	
<b>K</b> 10/17-11/27	カプカプ竹山ほか
ココロはずむアート展	

<b>L</b> 11/23	上郷地区センター
ミニegaoフェスティバル 上郷きらきらまつり	
<b>M</b> 10/30	新山下地域ケアプラザ
ここに響く打楽器作っちゃお♪	
<b>N</b> -11月	アートスペース赤い家
土地の記憶から生まれるアート 「田んぼの向こうのこどもの国」	
<b>O</b> 12/10-16	栄区民文化センター-リリス、地球市民 かながわプラザ(あーすぶらさ)ほか
ティーンズクリエイション2019	

<b>P</b> 11/23	東横フラワー緑道
竹灯籠を作ってみよう!	
<b>Q</b> 10/13, 11/3, 12/1	なかと区民活動センター
ワークショップ「写真は語る」	
<b>R</b> 10/12-13	横浜市開港記念会館
美術品修復プロジェクト	

<b>S</b> 10/25	紫雲会横浜病院
楽しい、楽しい、みんなが楽しい秋まつり	
<b>T</b> 10/19, 11/16, 12/14	緑区民文化センター みどりアートパーク
みんなでワークショップ	
<b>U</b> 11/3	HONMOKU-AREA2
本牧子どもディスコseason5	
<b>V</b> 11/9	大通公園
大通り公園 運河パレードでアートブース	
<b>W</b> 10/7, 10/21	洋光台四丁目自治会館、 洋光台地域ケアプラザほか
ワンコインゴスペルワークショップ	
<b>X</b> 11/4	鶴見公会堂
映画『日曜日の子供たち』上映会in鶴見	
<b>Y</b> 12/28-30	象の鼻テラス
Winter Atelier DARUMA ART	

📍 ヨコハマアートサイト  
2019参加活動

📍 本誌で取り上げた場所



あうたびに、あたらしい  
 Find Your YOKOHAMA

最新情報・詳細はこちら <https://y-artsite.org/>

ヨコハマアートサイト 🔍